

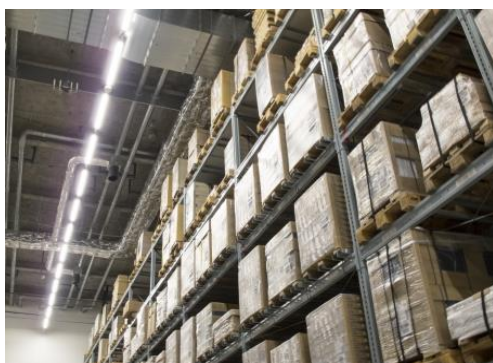


環境経営レポート

株式会社ダイトク

2023 年度 第 27 期

(対象期間: 2023 年4月1日～ 2024 年3月31日)



発行日： 2024年5月31日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画	8
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11
これまでの環境活動の紹介	11

ごあいさつ

日本国内のコンクリート産業は、年間2,500万tものCO2を排出していると言われています。弊社の得意先であるコンクリート二次製品メーカーの実績も当然そこに含まれており、業界全体で2050年までにサプライチェーンも含めてカーボンニュートラルを目指すという目標に向かい様々な努力をしているところです。

現時点では、環境経営に移行せよとの要請はありません。しかし、私達のような中小企業こそが自主的に、環境配慮に対する取組みを推進することで「持続可能な消費と生産」が促進され、経済のグリーン化を進める一助になると確信しています。

弊社は「至誠一貫」という経営理念を掲げています。その意味は「まごころ」を尽くして行動すること、そして自分にも他人にも「純粋な気持ち」で向き合い、思ったことをしっかりと成されるまで継続することにあります。

私達の事業活動は「社会のため」であり、それは即ち「環境のため」でもあります。

その両立を実現して初めて、社会的な責任を果たしていると言えるでしょう。

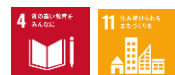
株式会社ダイトクは、エコアクション21の取組みを通じて、環境経営に尽力いたします。

環境経営方針

- ①本業である、コンクリート二次製品メーカー向けに供給している金属製品の生産を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。
- ②新規事業として、環境負荷を低減する新しい技術を世の中に広めることで、社会に貢献していきます。
- ③商品やサービスの品質を維持しつつ、より環境負荷が少ない方法を模索することで、全社員で継続的な改善活動に取り組んでまいります。

環境保全への行動指針

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 脱炭素化社会に向けて電力や燃料の二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 循環型社会に向けて廃棄物の発生抑制や再資源化に努めます。
4. 水資源の有効利用のため水の削減に努めます。
5. 環境に配慮したサービスをお客様にお届けします。
6. この行動指針を全従業員に周知徹底します。
7. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。



制定日：2023年7月1日

代表取締役 徳原安洋

組 織 の 概 要

(1) 名称及び代表者名

株式会社ダイトク
代表取締役 徳原 安洋

(2) 所在地

本 社 大阪府東大阪市森河内東1丁目38番27号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	代表者	徳原 安洋	TEL : 06-6784-8888
担当者	課長	徳原 隆行	TEL : 06-6784-8888

(4) 事業内容

特殊ネジの製造・販売

(5) 事業の規模

売上高(2022年度) 193,122 千円

		本 社
従業員	名	5 名
延べ床面積	m ²	227 m ²

(6) 事業年度

4 月 1 日 ~ 3 月 31 日

□ 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 :	株式会社ダイトク
対象事業所 :	本 社
活動 :	特殊ネジの製造・販売

□事業・製品の紹介

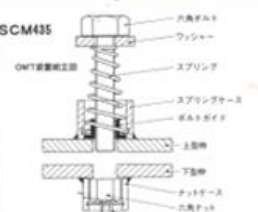
コンクリート二次製品工場の生産ラインで使用する型枠関連の消耗品
および組付け部品の製造・販売

型枠締結装置(アイボルト、高ナット、ワッシャー、締付ボルト、その他関連部材)
ヒューム管用ソケット、プラグ、注入孔など

パイル関係

DAITOKU
DAITOKU
DAITOKU

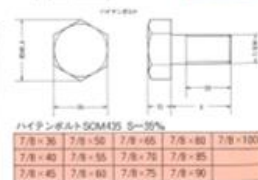
●OMT装置(ワンタッチボルト) SCM435



●アイボルト SCM435



●ハイテンボルト SCM435



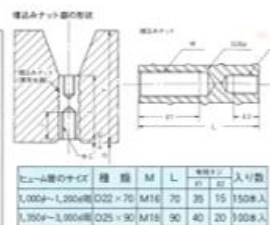
●緊張板、定着板、2本取り治具、緊張ロッド等、一式取り扱っております。

推進管関係

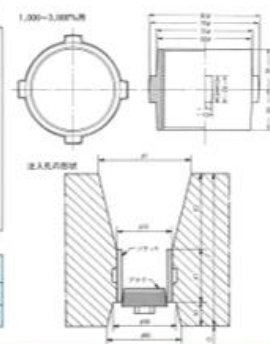
DAITOKU
DAITOKU
DAITOKU

緊結用埋込みナット及び附属品

●埋込みナット SD 30



●注入孔用ソケットプラグ FC 20



● 型枠用締付装置(アイボルト・OMT装置 など)全般



● 緊張ボルト(段付ボルト／吊りボルト)・緊張治具



● FCパイル・FTパイル用ボルト



● ヒューム管用ソケット(推進管・肉圧管)

- ・肉圧管用ソケット
- ・推進管用ソケット(鋳物製)



● ハイテンションボルト

【国土交通大臣認定品】

- ・ハイテン六角F10Tボルト
- ・ハイテン六角F8Tボルト(溶融亜鉛めっき)
- ・トルシア形高力S10Tボルト



● ポール製造用附属品(足場ボルト など)

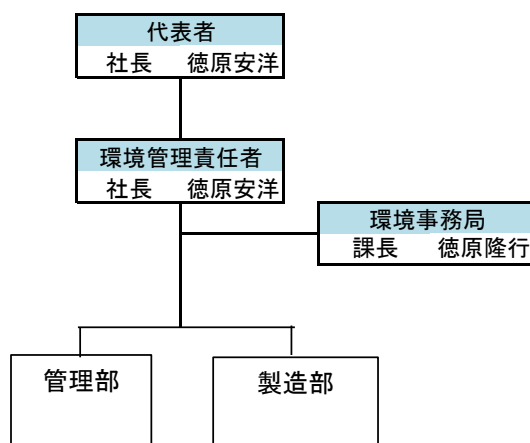
● その他 建築資材および別注金物類

● 止水パイプ・樹脂プラグ

● 埋込インサート

環境経営組織及び役割・責任・権限表

更新日：2023年7月1日



全従業員

	役割・責任・権限
代表者(社長)	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 - 環境管理責任者を任命 - 環境経営方針の策定・見直し - 環境経営目標・環境経営計画書を承認 - 代表者による全体の評価と見直し、指示 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境経営目標・環境経営計画書を確認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認
環境事務局	- 環境管理責任者の補佐、の事務局 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 - 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	- 自部門における環境経営方針の周知 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 - 時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 - 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 - 試行・訓練を実施、記録の作成 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	- 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂		11,667	9,559
Scope1 (化石燃料)	kg-CO ₂		8,699	6,175
Scope2 (電力)	kg-CO ₂		2,968	3,384
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	k g		312	308
産業廃棄物排出量	トン		0	0
水使用量	m ³		50	58
※関西電力2021年度排出係数（調整後）			0.311	0.311
※2023年度のデータは期初から期の途中まで			関電	関電
※二酸化炭素総排出量には灯油分含む				

kg-CO₂/kWh

環境経営目標及びその実績

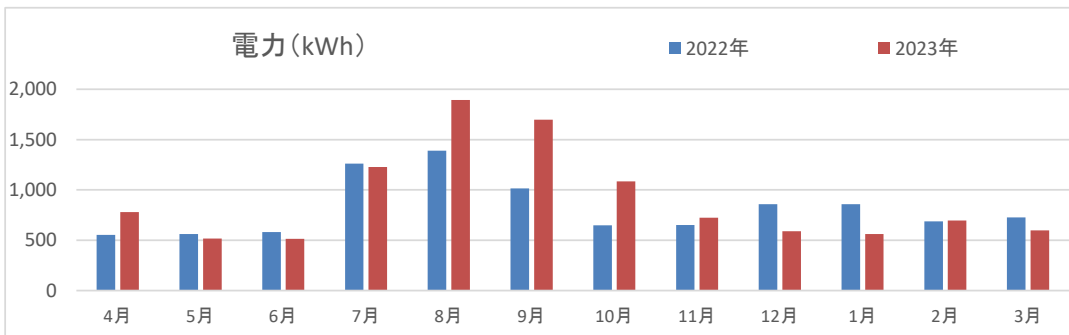
年 度		2022年度	2023年度		評 価	2024年度	2025年度
項 目		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素	kg-CO ₂	2,968	2,938	3,384		2,909	2,879
	基準年度比		99%	115%	×	98%	97%
売上高原単位	kg-CO ₂ /千円	0.015	0.015	0.021	×	0.015	0.015
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	8,141	8,059	5,710		7,978	7,897
	基準年度比		99%	71%	○	98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	11,109	10,998	9,094	○	10,887	10,775
一般廃棄物の削減	kg	312	309	308		306	303
	基準年度比		99%	99.8%	×	98%	97%
水道水の削減	m ³	50	50	58		49	49
	基準年度比		99%	117%	×	98%	97%
環境ビジネスによる顧客のCO ₂ 削減	行動目標（次項による）						
課題を解決しチャンスを活かす取組	行動目標（次項による）						

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標: ○達成 ×未達成

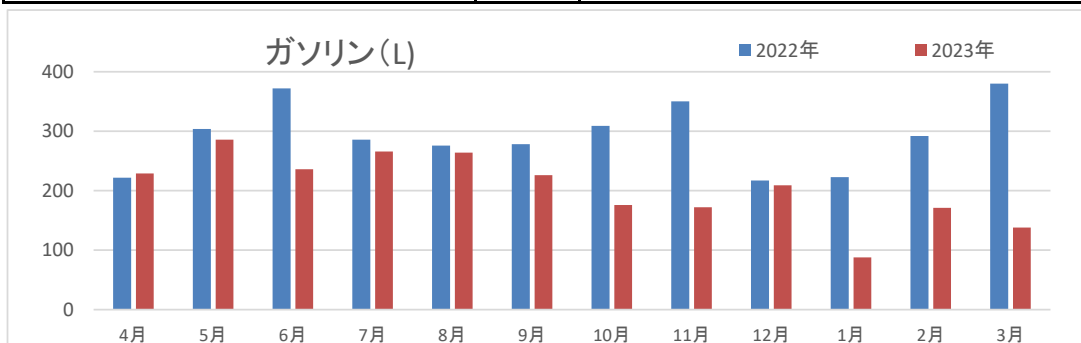
活動: ○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	2023年7-9月の消費電力が昨年比で1.3倍増大している理由について、原因は2つあると分析している。まず1つは、2022年4月に導入した製造設備の稼働状況である。NC旋盤・バンドソー・コンプレッサー・エアコンの4台を動力で使用開始。2022年度は導入間もないこともあり稼働率は低かったが、2023年度は加工賃ベースで昨年比2.6倍の稼働であり、電力消費が多くなるのは必然である。(2022年 ¥210,713 → 2023年 ¥557,191)
・不要照明の消灯	○	
・残業時間なしを継続	○	
・空気圧縮機のアア洩れ点検	○	
		2つ目は、酷暑の影響でエアコンの使用量が増えたこと。さらに言えば製造設備の稼働率が上がり、工場での作業時間が増えたことで、エアコンの稼働時間も必然的に長くなる為、その点でも電力消費が多くなったと考える。
		使用しているエアコンは最新のものであり、省エネ性能については申し分ない。工場の稼働時間短縮や、暑さを避けた時間帯の選択、電気を使用しない暑さ対策などを取り入れていきたい。
		1年間の消費電力は前年比114%。内訳として、 般電灯の消費電力は前年比で99%



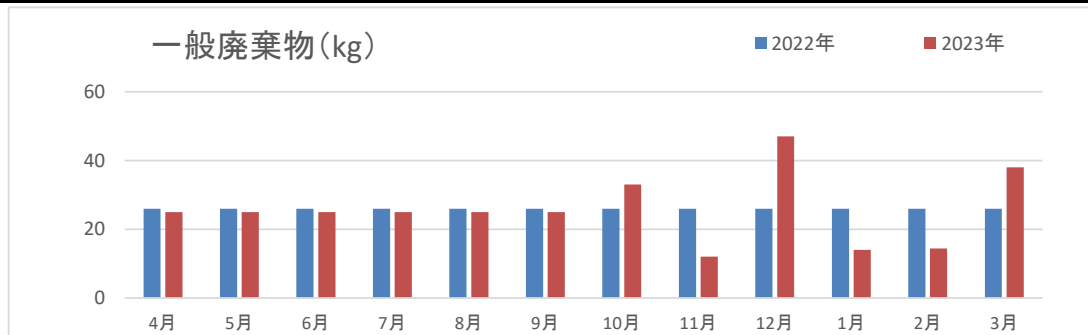
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	554	563	581	1,260	1,389	1,016	648	650	857	857	689	727
2023年	779	516	515	1,227	1,894	1,698	1,084	723	589	562	695	599

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	1年間でガソリンの消費量を30%削減。 外注していた加工を内製化したことで電力消費は増えたが、伴って輸送の頻度が減り、CO2排出に大きな影響を与えている化石燃料の減少につながった。
・エコドライブの浸透	○	
・輸送の回数を減らす工夫	○	
・燃費の良い小型車両の積極利用	△	



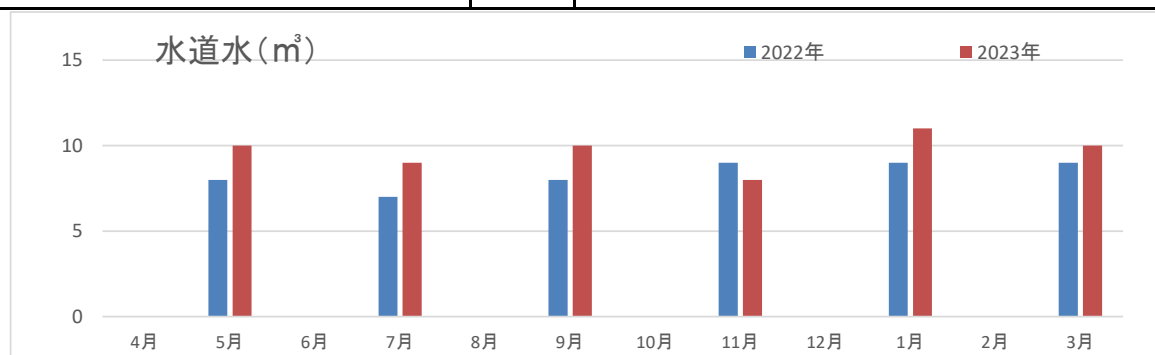
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	222	304	372	286	276	278	309	350	217	223	292	380
2023年	229	286	236	266	264	226	176	172	209	88	171	138

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	取組みを開始したことで効果は出ているが、受注拡大に伴って廃棄物が増え相殺されている。 次年度以降、積極的に削減することは難しい印象がある。
・分別の徹底	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・持込ごみの見直し	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
2023年	25	25	25	25	25	25	33	12	47	14	14	38

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	節水を心がけているものの限界があり、大幅に削減することは難しい印象。 次年度は、2つある水栓のうち1つを閉栓することで対応したい。
・節水の呼び掛け	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	0	8	0	7	0	8	0	9	0	9	0	9
2023年	0	10	0	9	0	10	0	8	0	11	0	10

環境ビジネスによる顧客のCO2削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・新規事業の計画	△	新たに計画中の事業は、建設現場で発生する汚染土壌や、製造業が排出する産業廃棄物を無害化する、環境負荷を軽減するソリューションであり、社会貢献できる環境配慮事業。6月に産業廃棄物中間処理・収集運搬の講習を修了。2024年2月には土壌環境保全士の資格を取得。
・資格の取得	○	



環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物の保管・排出
騒音規制法	空気圧縮機の設置
東大阪市生活環境保全等に関する条例	NC旋盤、コンプレッサー、バンドソー、エアコン
大阪府生活環境保全等に関する条例	空圧機、バンドソー
フロロ排出抑制法	業務用空調機
消防法（危険物）	消火器の点検
家電リサイクル法	エアコン、冷蔵庫・冷凍庫
グリーン購入法	できる限り環境物品等を選択するよう努める

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

外部からの環境上の苦情・要請等

2023年10月時点まで、近隣からの苦情・要請等はありませんでした。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023年11月7日	■実施場所 工場
■参加者： 全従業員	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 工場で出火したことを想定した、通報・消火・避難訓練	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
火災対応手順書に基づく訓練を実施した。特に不具合はなかった。	
■実施状況の様子	
     	

緊急事態の想定： 油流出事故の発生	
■実施日： 2023年11月7日	■実施場所 工場
■参加者： 全従業員	
■実施内容： 工場で切削油の交換時に流出したことを想定して、吸油・清掃の訓練を実施した。	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
油類流出事故対応手順書に基づく訓練を実施した。特に不具合はなかった。	
■実施状況の様子	

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日: 2024年5月31日

今年度7月よりエコアクション21認証取得に向けて取組を開始。3ヶ月経過時点の状況について報告と検証を行いたい。

- ①電力 … KWhでは前年比131%に増加
- ②自動車燃料 … 前年比90%に減少
- ③一般廃棄物 … 前年比96%、わずかに減少
- ④水道水 … 前年比126%に増加

基準年と比較して、従業員数が増えたこと、設備が本格稼働したことを加味して、全体の評価と見直しを行う。
導入した設備が本格稼働したことにより、外注先への材料搬入および完成品の引取り等、トラックを走らせる頻度が減り、伴って燃料の使用量も減らすことができた。その反面、設備の稼働時間が増えたことで使用電力が増大。酷暑のなか工場のエアコン稼働時間も増えた為、電力消費量は1.3倍となっている。しかしながら設備の生産量が、前年比で2.6倍(加工賃ベース)であることを考えると納得できる数字である。
水使用量については従業員の増員が主な要因。手洗いやトイレの使用向けが殆どだが、設備の切削油を希釈する為に使用する水の使用量も増えており、昨年比126%は順当であると考ええる。

初年度としては、まずまずの滑り出しであると評価しているが、電力・自動車燃料の項目で更なる環境負荷低減を図るための施策が必要である。カーボンニュートラル・SDGsへの取組が社会的課題となっていることを踏まえ、エコアクション21を活用し、全社を挙げて推進することで責任を果たしていきたい。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

これまでの環境活動の紹介

地域の清掃活動

2023年12月2日(土)近鉄 八戸ノ里駅～河内永和駅までの道路清掃

最も多かったのはタバコの吸い殻でした

清掃活動を通じて、地域美化の意識が住民の方に浸透することを願います

